

2017年度の日本山岳遺産として 全国6カ所を認定

岩手山 | 岩手県 | 岩手山地区パークボランティア連絡協議会

認定団体 環境省認定のパークボランティアとの連絡調整を図るとともに、岩手山とその周辺地域の自然環境保全・登山道整備などに尽力している。
認定理由 地域に根ざした団体として地道な活動を続けており、オオハンゴンソウなどの駆除も自然植生保全のために必要な活動であることを評価。



オオハンゴンソウ防除作業の様子

ニツ森 | 秋田県 | 秋田白神コミュニケーションセンター

認定団体 2013年から白神山地・周辺地域での環境保全活動や啓発活動を続けるとともに、観光振興との両立も図り、地域振興に寄与している。
認定理由 地域の人々、特に児童、生徒向けの環境保全啓発活動など、助成を何に活かすかが明確であり、次世代への環境教育の面でも評価できる。



美しい新緑と残雪の白神山地

霧ヶ峰 | 長野県 | 霧ヶ峰草原再生協議会

認定団体 「霧ヶ峰自然保全再生実施計画」に基づいて、各年度の作業計画を定めて、外来種駆除や草原再生作業を実施している。
認定理由 利用者が多く訪れるエリアであり、生態系の維持や草原の復元など、今後の活動においても成果が期待できることから、助成を決定した。



ニッコウキスゲが咲き誇る車山肩

入笠山 | 長野県 | 入笠ボランティア協会

認定団体 2003年から入笠山・入笠湿原での生態系保全活動を続けている。活動には地元のスポーツ少年団や子ども会も参加するなど、地域とのつながりも強い。
認定理由 活動が長年継続されており、次世代への環境教育も含めた活動である点が期待できる。



地元小中学生との外来種除去作業

三ツ峠 | 山梨県 | 三ツ峠ネットワーク

認定団体 2010年の設立以来、アツモリソウの監視・保護活動を中心に三ツ峠を愛する人々の相互交流を進めている。
認定理由 アツモリソウの保護に長年の活動実績があり、深刻なシカ食害も進むなか、防鹿柵の設置も重要な活動である点を評価した。



三ツ峠での防鹿柵設置作業

伯耆大山 | 鳥取県 | グラウンドワーク大山・蒜山

認定団体 2008年設立。大山・蒜山地域で生物多様性の保全・希少野生生物の保護・自然体験学習の推進など幅広い活動を進めている。
認定理由 生物多様性を活かした里山と奥山の環境学習活用事業を行なうなど、次世代育成の面でも今後の発展が期待できる。



奥大山での自然観察ハイキング

第8回 日本山岳遺産サミット

日時＝2018年2月25日(日) 13時30分～16時(開場13時)
会場＝インプレスグループ セミナールーム(東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング23階)
第1部 2017年度認定地・認定団体発表
第2部 特別講演「日本の山とシカ問題(仮)」
麻布大学いのちの博物館上席学芸員・高槻成紀先生
定員＝80人 **参加費**＝500円
*会場の都合により事前登録が必要
申込方法＝日本山岳遺産基金のウェブサイト(sangakuisan.yama-kei.co.jp)から申し込み
申込締切＝2018年2月16日(金)
*定員に達した場合、締切日前に受付を終了
問合せ先＝日本山岳遺産基金事務局(山と溪谷社内) ☎03-6744-1900(代)
主催＝山と溪谷社・日本山岳遺産基金

山 岳環境保全、次世代育成、安全登山啓発を目的に活動する日本山岳遺産基金では、2017年度の日本山岳遺産認定地を決定した。本年度は全国から8団体の申請があり、アドバイザーボードの助言のもと、日本山岳遺産基金事務局で検討し、上記の6カ所を日本山岳遺産／認定団体として認定することとした。それぞれの団体において、山岳環境を守るための地道な活動を自主的に継続している点を評価した。6つの認定団体には本年度中に助成金を拠出するとともに、『山と溪谷』ほか、山と溪谷社の媒体を活用し広報を支援する。また、18年2月25日に開催される「日本山岳遺産サミット」では6団体の活動内容の紹介やパネルディスカッションなどを行なう予定。